青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-001

国立国会図書館

帝国図書館蔵書

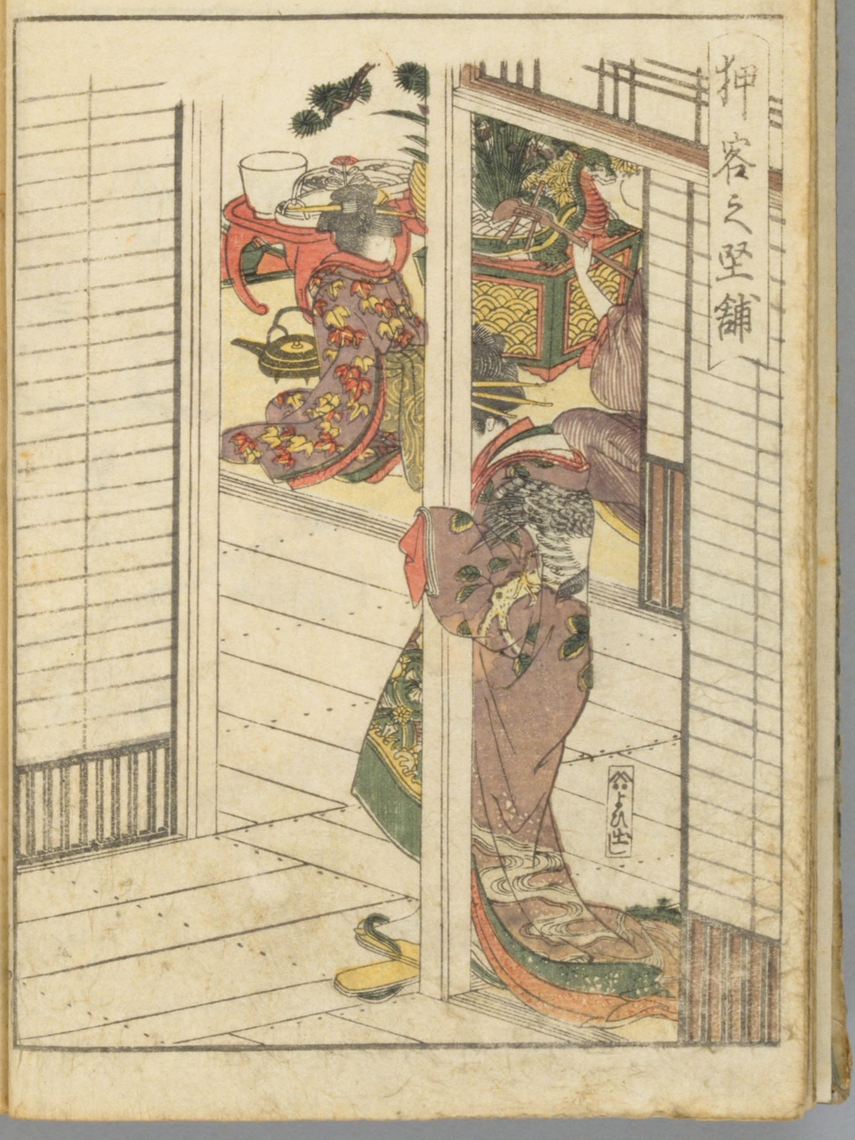
青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-002

国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-003
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-004
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-005
国立国会図書館



青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-006
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-007
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-008
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-009
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-010

国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-011

国立国会図書館

八朔之祀

曲中に谷さて家谷の座。老婆の所に年の月を。
男居たる所を来よりて發て。今の竹村伊勢方之 絢越の金
桝屋腐を。山屋市右衛門繁也し。耳露毒ハ。
松屋に始て。昆布中紀ハ近江屋。袖の梅ハ伏
見所の丁溪と元祖とし。大羽子板ハ浜たやの
勤馬を賞て。兵庫屋ハ兵庫屋一家。繪山
風を。山本屋のこの門山を賞て結物也。此に紫月
因通の節句に。偶然のおしなべて。兵垢と云るお
たてハ。元祿の時。江戸町巴屋源右衛門方のこる橋

といへる全蓋瘧と然れ居たりけるが八朔級日の
絢米にて。深く云かハ世し何来の。仲の町へ来りし
ゆへ。こる橋兵垢の侍にて。其時ハ稱中紀言葉にハ皆白むくとなるよしを その
岩の迎ひに出る様に。宮に影容繚繞として
本に花の雪とふくあるに。其情きよりかなれバ。この水入
はじひしりて。高橋の風俗を視て感出せしに
とりて。是に倣て八朔りハ。總る無事に兵垢と
きるなのおの門のうなれて大金に能しれど。
迂先との説なるん紀。ちて其時の時花唄の
日ていしあらけて。掃手ハ北しで。あき馬うり

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-012
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-013
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-014
国立国会図書館

武夷産なんしの造物等美麗を足しまた本を
拙山を築て。拙灯里のがらくに孫半載新
曲。業に来社の蒸ばしし。傳告が妙書相義が妙
手。七年が清稽無雅にしておりしかる。愛治がこゝ指
又興あり。盃の新席上を回里。其積の山に似く
花樹を惜む。良夜の活計。近は霍鳴樓主人の
詩より所云

綺紗燈宵鬧如沸　月光相對笑群内
粉頭來往鬪芳隣　羅綾綢繆通好妹
東家西家有絡盛　裝殺飣核自滿檠

豹胎間挾鯉氷脆　烏攬分挽椰玉生
琴瑟彈畢自清風　堂上人語桂花中
一般色藝三千戸　亦有愁顔隔墻住

初會の堅鋪

嘉興の沈雨若ハ千金を費して。金陵の花葉を定
む。初會見て併し。倡妓の看品を見立て弄ぶ。
若者客を誘て此處に請じ。盃を出し覆ぶことを
望ぶうち。此鋪の火を漸く小起かり。蝸壺の蝸蝸来
鳴らして四隣に足る。床の間の前に。多紫粉黄堆
なりしに中に。利事地に生綸のかなりの光を。此入の

遷所までできらくしきハ。全盃おきまくの調度ゆゑ。
見ぬさきにおのづからの。其主を殿しこゝ。沢に黒塗の
行地ゆゑハ見ぬれども。其人所作ともに不揃深の光を
矢ひ。そる蔚鉢の元かゝ。ハ手明の蝶葉盆繪ほし
女郎にや。但俗ゆゑ。ぐらくらぐらの貨りとおもハれ。
程が姫の思し。老二分出。ゆし雛れて来座にあり。
形て相方を連て席上にまいると。若老ゑ行て色を
をもるに。取とて見ぬよりで見るあり。笑ゆゑで見ら
ハぬあり。唯何のこゝろなしに受るあり。横にまいりて客
に向ひ。相方の流し目に其楽様をおもハせ。侍

下ノ十三

紫同士のたなしなどもるに高拝にして淫夢清く。
独にて嘔ひを覆ふなどに今宵此あるを雑りを女台
にして。蓮中玄珠なり。或は雛妓をよび兎を
招ひ。何かさゝ母ハ若草若老の絹をまるぎ。こゝのら
見ゆるにて何女郎ハ。たゞして此夜陣あり。或ハ無ぎて
なぞ呑なぞのこ。其あの頼ハ見ぎ。常縁のあらりと尻
目にのけ。志ろ見くしと見る女郎ハ。其ゝ其客を招付る
先飛にて。さげしむの公あり。蔵を其屋の女房招
をおほはし。唯のうちに笑ゆるあり。其笑ふ附に客の
方を見る女郎ハ。きハ先て蓮房再出し。されど始より

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-015
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-016
国立国会図書館

産婦の肉ざけとして安はなぜ。本間に入ても志ばらくハ
待せ置ける其上にて。いかにも見者あらまし。後の
あけて急にして。本間に入とまひつゝと。和く語まふ
体ハ。たゞ先高何と思ひしも。うけてかけし。歌詠にて。格
別にその客の気を喜ばせ。公を奪ふの意。獲え
見ゆる初夏の辞にして。其所を挙るに遅なし。唯
その気を得変に感じ。左右ともに見をとらせ人
遭ぬ程度。亦気一箇の才とやりぬべし

居續の座補

毫を採バものうも。楽器をこれバ音をまてんと

おりふ後朝のきぬくに。雨をまたてハ居續せんことを
思ふハ向ふ所の使境にしたがひ。心かるゝぞるに解て。
来るなりと兼好法沙のいまし先なりぎれや。巴
陳の内に逐ふハ人情の私にして。こゝに侘傺するが
ゆへに。俳諧を忘れて居續の碇をおろし。深手に
帳を。十分あげたる床の海に。まさしく女を清女宣を
来たらし。起出たる客の都たかたに盥に移て書く。
斬をうけ雨ざれの青ハ志げけく。湯をかれる乗包し
の拝ハ扉下中に置てこるし。此時中に鉢にかゝりたる
小鍋の蓋泡をふきぬし。たゞしとろ所に給ふ。

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-017
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-018
国立国会図書館

散るはかとの。それくの公くいとおのしし

倡家の法則

客列際しあはいたらぞ。他の倡家はけて。ちやじゝ
おとぶを制する事。此さとのちやいしにて。客和列際し
女らの方と里。されの女郎へ附所の姿をつかはし。
若しきあ来る時は。告しきさぎるを彩ゝやる文
ゝは菓子着などを添ておくる。されど彼方より
ゝと味ありて。志らせざる時は。彩造は指揮して大
いは埋伏させ。客の場所を待更て捕来るその騒動
いはんかたなく。お姿弱に結の案結をかけて溝へ踏ごゝ。

客用の捕を小捕となりて。手捕のあと表宝
よりかかり。誰や所蛇をひつくりかへし。并ち始まり
まづまつけて彩下の犬と驚はし。おくり物をさげ
茶屋の男は鉢を割せ。猪級ても蕃のてん
ぞん持にはゆきあたらざ。手出さて羽折は斜に
ひらつ紀。追ふる搭袖は彩風にひるがへ。ひ物
人の山をなしてゆくあを遮ふ。あるに捕へ
られて。この列際の家にいる。此り於て注意に請
出し家の手遣をとる。羽折を脱せ帯を解して。
席上にまいらせ。家以彩造ふ家の姫を紀来

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-019
国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-020
国立国会図書館

人の邂逅にお意みの公感じ。そのおりしろさんが
深て後の。是ぞのひと月ふた月のうちに限りてかぶりに
公の庭と掛里いまだ此の上をかぶり。氣を見あふ
うちの娘子ぞ。ゐるもいふぞくもあらぬ。それが思ひて
次第に深くなりけまに。女命ゝ家の情を案じ
客ゝ女命の苦男を察し。節句紋の相伝に
此の結と成知恵を看ひ。たゞ兄嫁母に相ひしに
ひきとく。今ハ衛三度にて度。内蔵を恵を頼るも疲我
情にして。かゝ家此になるなど。義理ばくめて金の
入る事ハ絶ぬ。凡る女命に好る客の。永く通ひし

例はなく。さて年の半月にして。夏に故障出来り
きれるともなしに。何の訳なく。さとぎり里。神のけて
指さひしても他になり申くものなれば。迚も来ぬ
遠ざれるハ稀にして。孫ハおもハぬに身を住を
ても。河井の宮ゆ小る拵のごし。たゞ忘て知るなら
も。鹿屋のおりひに及ぬ事の絶来をし。本間に
ひざし倩楽を呼入て。むかしまじき拵子を見せ。嬲ら
るゝを乗ゝにおりひ。其家の此拵ものごしを。能
覚る弱身持の戯れもいと嬉しき。まゝ人名をあ
ふこの再すハ通ふ神の淫宣など侍ふ。程もなく

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-021
国立国会図書館

ゆる無をこ。あはかきとるよふはなかり。其續の日は格子
のうへ小屋風をとて回。あの形指あきをかくし
湯にいる傳もおしゆりて閑緒をへ頼もつんせぎ。ひふ
かなしぎと約束せし髮結をおさ目へ延し。今と
以ほ深し仲の丁へ屋病をおこして斷をいはせ。こゝろ
編てきほ若りの唄をこゝろはかけ。此客が惣花の
札。今以てこれぬをかくち早ち名代のあまと同理
のまはし夜具をとあまるなどにかなりさんばあらを拵
文ひ和合の事のこゝろ。家業も手にはたらぎし
ておこゝ里路にも死を敬死をいふる。十日後に妓女は

下ノ二十

色荒して。情倦忽求衣敝まで。金尽れば亦歡寡し
て愁殷こゝ宴千阱を設るの所にして。偈家の薄
倖。弁へて恒るべく恃むべきの
一芸ならぎや

青樓繪抄 年中行事 大尾

青楼絵抄年中行事 2冊 寄別5-5-3-13 02-022
国立国会図書館

青楼繪抄

十返舎一九編輯

年中行事後編

全部二冊近刻

此書は今初編に洩れる元日内裏の佳式宝引
七種の夷講等を記初午雛祭あやめ為の節句
紫玉の曽画曽まゑ七夕草市髪洗日暫里
免の煙籠二度の仏和哥菊の節句玄猪の
嘉式ほうけ蜂掃し併法きホ家々の格例を悉
く偶妓の実出しより門出し祝賀年明身清

下ノ

の差別或ハ附所の弁ならひ引の意勤初訓染
初名代の魂纏おくり迎ひのかけ引致日惣花の
活計身扱の始末さべて呼出し散茶惣文女
妓の切状を且かちこと写ることを著し稽古録り
むかしと今名ゝ家性名の負実なる傳紀を集て
悉く追加せるものなりし

於青楼仲街濱野屋
集道之楼上

十返舎一九撰

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-023
国立国会図書館

特別 辰 2 18

江戸繪師　喜多川舍　紫屋歌麿筆

校合門人　喜久麿　秀麿　竹麿

彫刻　藤一宗

摺工　霍松堂　藤右衛門

古子呆四歳甲子蒼陽發兌

東武日本橋通四町目

書房　上總屋忠助壽櫻

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-024　国立国会図書館

青楼絵抄年中行事　2冊　寄別5-5-3-13　02-025

国立国会図書館